

観光社会資本の事例

テーマ	新潟市のシンボル萬代橋
【施設の状況写真】	
	
信濃川に架かる萬代橋。新潟駅と中心市街地を結ぶ幹線道路として重要な橋である。平成16年7月に国の重要文化財に指定された。	リズミカルな6連アーチに加え、表面は御影石が施され、重厚さをもあわせもつ。平成16年には、75年前の建設当初の照明灯・橋側灯などが復元された。
【施設の利用写真】	
毎年4月末に行われるチューリップフェスティバル。オープニングでは、自分で育てたチューリップを幼稚園児が歩いて見学する。また、萬代橋を渡る人たちの目も癒してくれる。	 8月には萬代橋の上で大民謡流しが行われる。橋の上が、多くの人で賑わう。
【観光資源としての利用状況】	
○萬代橋は、信濃川を渡河し、新潟駅と中心市街地を結ぶ幹線道路である。平成16年度には国道にかかる橋梁としては2例目の重要文化財に指定された。75周年記念事業として国の事業で実施し、建設当時の形に復元された。イベント時には多くの人で賑わい、4月には、市の花であるチューリップで彩られる。これは、昭和61年に市内の幼稚園児、市民団体により育てられたチューリップをもとに実施されたチューリップフェスティバルが始まりで、毎年、飾られるチューリップの数はどんどん増えている。 また、毎年8月には新潟まつりの一環として、大民謡流しが行われる。多くの市民が踊りに参加するとともに、見物客で萬代橋が埋めつくされる。	

テーマ	新潟市のシンボル萬代橋
【社会資本の基礎データ】 ○名称 一般国道7号 ^{ばんだいばし} 萬代橋 (国指定重要文化財、延長 L=306.9m) ○所在地 ^{にいがたけんにいがたし} 新潟県新潟市万代 ^{しもおおかわまんどおり} ~ 同市下大川前通・川端町 ^{かわばたちょう} ○事業名 萬代橋75周年記念事業 ○事業主体 国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所 ○事業期間 平成16年2月~平成16年8月(橋本体は昭和4年竣工)	
【社会資本の役割・効果】 ○道路橋としての役割 萬代橋は、増加する道路交通に対応するため、昭和4年に木橋から鉄筋コンクリート橋へ架け替えられ、初代から数えて三代目となる。 信濃川を渡河し、新潟駅と新潟市街地を結ぶ幹線道路で、現在も1日4万台以上の車と、1万人以上の自転車・歩行者が通行しており、現役の道路橋として新潟市の交通を支えている。 昭和39年の新潟地震(マグニチュード7.5)では、付近の橋梁が損傷で通行止めになる中、萬代橋は大きなダメージを受けたものの、唯一通行できる橋として、その後の復旧に大きく貢献した。 ○重要文化財としての橋 萬代橋は、川面に映る6連のアーチが美しく、また、橋の側面には御影石の化粧張りがされ、新潟市のシンボルとして愛されている。平成16年7月には、そのデザインおよび日本人だけで施工を行うのは日本初となった空気潜函工法(ニューマチックケーソン)の技術などが認められ、国の重要文化財に指定された。また、鉄筋コンクリートの充腹アーチ橋としては、日本一の支間長をもつ。(最大支間長L=42.4m)国道にかかる橋梁では日本橋について2例目となる。	
【位置図】  	
【関連ホームページ】 観光関係 http://www.nvcb.or.jp/ 萬代橋関係 http://www.2159.go.jp/	